

犬にひかれて南伊勢

梗概

私たちは、南伊勢町の活性化として「犬旅」を提案する。江戸時代、多くの人が伊勢神宮へお参りに行くおかげ参りという現象が起き、それに伴い、主人の代わりに参詣するおかげ犬も存在していた。この地域は昔から犬と関わりがある。

近年、犬は番犬・愛玩動物という考えから家族の一員という考えに変化している。ペット関連総市場規模も増加傾向にあり、国内でもペット可マンションや公設ドッグランの整備も進んでいる。

日本よりも早く犬旅が発達したヨーロッパでは、犬を家族の構成員と考えており、一緒に旅行に行くのは当然である。公共交通機関や宿泊施設もペットに関して制限がない場所も多く、気軽に利用できる。

南伊勢町には豊かな自然や海産物がある。人も犬も楽しむことができる犬旅は町の活性化につながるであろう。

昔から伊勢地域と縁のある「おかげ犬」、ペット需要の高まりとペットツーリズムや犬産業、国内外のペットツーリズムの成功事例を紹介したうえで、南伊勢町活性化のための「犬旅」について提案する。

長野県立大学

グローバルマネジメント学部

野口暢子ゼミナール

発表者：里吉凜香・土屋凜

登壇者：河本芽生・遠藤優大

キュウブンシン

参加者：上條将輝・グエンドック・

ホウトウヨウチャールズ・

吉澤僚真

はじめに

南伊勢町の活性化を考えるにあたって、まず、私たちは、現在の町の産業を調べた。その結果、漁業、沖釣りのレンタル船の貸し出し、珍しい柑橘類の栽培など、1次産業と観光業が重要な産業であることがわかった。手厚い子育て支援やGIGAスクール構想の導入なども魅力的だと感じた。反面、現在の問題点として、深刻な少子高齢化問題に伴う耕作放棄地や空き家の増加が気になった。

これらの調査結果を基に、耕作放棄地や空き家の活用、自然を活かしたエネルギー産業など、新たな産業創出の可能性を考察した。犬が愛玩動物から家族の一員に昇華しており、犬に関する産業が活性化している。そこで、南伊勢町は「犬」に焦点をあてた産業振興が可能であるという意見でまとめ、 「犬」をキーワードに南伊勢町を活性化する方策を考察することにした。

かつて、「おかげ犬」という伊勢参りをする犬がいた。犬に関する産業が南伊勢町の活性化につながれば、町にとって、犬は、現代の「おかげ犬」となるであろう。「牛にひかれて善光寺」のまちの学生として、「犬にひかれて南伊勢」という政策を発表する。

1. おかげ犬

1. 1 おかげ犬とは

江戸時代、伊勢神宮にお参りに行くというのは人々の夢であった¹。そんな中、多くの人がご利益を求め、一斉に伊勢神宮に参拝する現象が起きた²。江戸から伊勢までは、片道400kmを超え、徒歩で1カ月ほどかかる。そのため、伊勢参りに行きたくても行けない人が大勢いた。そのような主人の代わりに伊勢神宮を参詣したのが「おかげ犬」だ³。

「おかげ犬」は、首に賽銭や「お伊勢参りがしたい」といった書状をかけて送り出され、一緒に行く伊勢参りの人や沿道の人に可愛がられながら、伊勢までたどり着いて、お札を携えて帰ってきた⁴。当時の人々は「おかげ犬」にエサを与えたり、宿泊させてあげたりすることで、徳を積めると考えていたようだ⁵。

歌川広重は、いくつかの作品に「おかげ犬」を描いている。伊勢市の「神宮の博物館」に展示されている「伊勢参宮宮川渡しの図」もその例である。

福島県須賀川の十念寺には、おかげ犬「シロ」にまつわる犬塚がある。シロは、主人が病に倒れ、毎年恒例の伊勢参りができない状態になったことで代参し、2か月後には戻っ

¹ PetSmile 「「おかげ犬」って何？伊勢神宮に代理でお参りしてくれた実在の忠犬」
<https://psnews.jp/dog/p/29874/>（最終閲覧日：2022年9月25日）

² 伊勢に住む人々は旅人を温かく迎えた。旅人はその「おかげ」から無事にお参りできたため、いつしか「おかげ参り」と呼ばれるようになった。

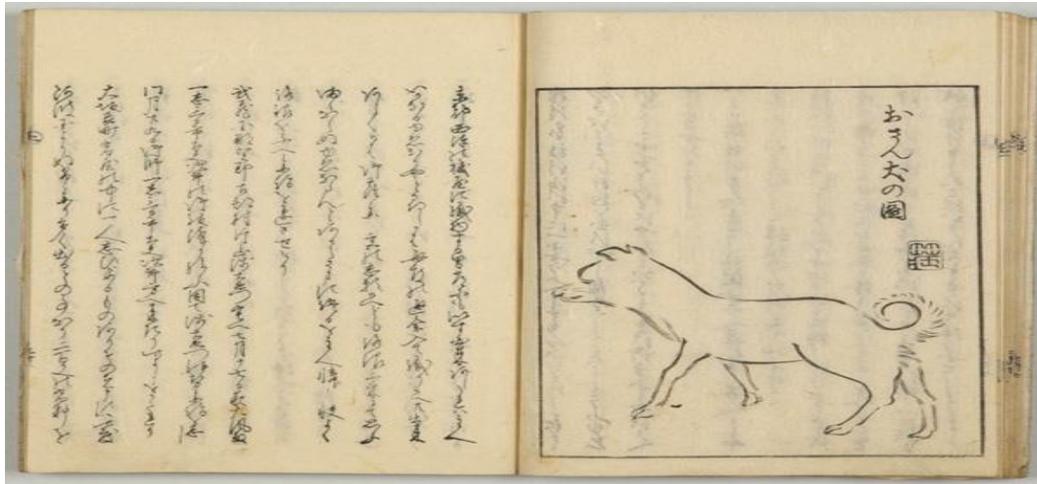
³ おかげ横丁「ようこそおかげ横丁へ」
<https://okageyokocho.com/main/about/>（最終閲覧日：2022年10月9日）

⁴ 伊勢市観光協会「【おかげ横丁】おかげ犬体験」
<https://ise-kanko.jp/okageinu/>（最終閲覧日：2022年10月9日）

⁵ 安田亘宏・中村忠司・吉口克利『犬旅元年—ペットツーリズムの実態と展望』教育評論社、2008年、199頁

てきた⁶。三重県津市にある「三重県総合博物館」に展示されている「御陰参宮文政神異記」にも、「おかげ犬」の記述がある⁷。

図1 阿波国から参宮したおさん犬



< 出所 > 三重県総合博物館 <https://www.bunka.pref.mie.lg.jp/MieMu/82867046554.htm>

1. 2 おかげ犬の現在

現在、「おかげ犬」は、伊勢神宮周辺地域のお土産になっている。

例1 三重県 伊勢市 おかげ犬みくじ⁸



< 出所 > じゃらんニュース <https://www.jalan.net/news/article/237734/2/>

⁶ TABIZINE 「「おかげ犬」って知ってる？ご主人の代わりに伊勢神宮を参詣した忠犬たち」
<https://tabizine.jp/2018/12/08/221216/>（最終閲覧日:2022年10月9日）

⁷ 同上

⁸ 裏返して赤い紐を引っ張ると、おみくじがでてくる。白、黒、黄色の3種類。高さは約5cmである。じゃらんニュース「【伊勢】おかげ横丁のおすすめ土産9選！おかげ犬グッズにお菓子・雑貨も」<https://www.jalan.net/news/article/237734/>（最終閲覧日:2022年9月25日）

例2 三重県伊勢市 もめんや藍 藍染ぬいぐるみ⁹



<出所> じゃらんニュース <https://www.jalan.net/news/article/237734/2/>

また、おかげ横丁ではおかげ犬体験ができるアクティビティも行っている¹⁰。

2. 犬旅の流行

近年、首都圏における新規分譲マンションの約9割がペットと一緒に暮らせるものになり、公園にも相次いでドッグランの整備が進められている¹¹。

東海林克彦は、ペットツーリズムを「飼い主とペットと一緒に、日帰りや宿泊の如何を問わず、非日常的な圏域や環境において、飼い主とペットの双方にとって余暇を楽しむためのレクリエーション行動」¹²と定義している。近年、ドッグランや犬カフェなど、ペットの中でも犬と楽しむことができる場所は増えている。

2. 1 ペット需要の高まりと変化

2. 1. 1 ペット・ブーム

日本では1980年代後半から、1990年代初頭にかけて第1次ペット・ブームが起こった。ブームを牽引したのはゴールデンレトリバーである。この頃、温和で人懐こい性格の犬を飼う人が増え、犬は番犬という考え方から、犬は家族という考え方に変化した。

1990年代後半から、第2次ペット・ブームが始まる。ブームの中心となったのは、ミニチュアダックスフンドやチワワなどの小型犬である。この時期に犬に癒しを求める飼い主が増えた¹³。

⁹ 安価で丈夫、通気性と保湿に優れた松阪もめんは、古来より重宝されてきたという。このぬいぐるみは松阪もめんで作られている。

¹⁰ しめ縄首輪を購入することでおかげ横丁を愛犬とともに散歩でき、クーポンや木札引換券などの特典をもらうことができる。

¹¹ 公益社団法人愛玩動物協会「ペットツーリズム」<https://www.jpc.or.jp/pet-tourism/>(最終閲覧日：2022年9月10日)

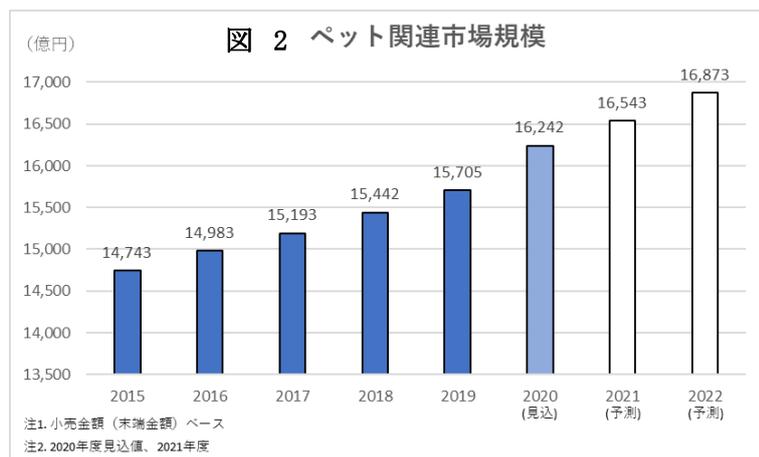
¹² 東海林克彦「ペット・ツーリズムの適正推進方策に関する考察」『観光学研究』14号、2015年3月、39頁

¹³ 「ペットビジネスの最新事情を知る」『日本経済新聞』2014年10月20日

ペット需要は現在も続いている。2020年の新規の飼育頭数は犬が46.2万頭（前年比14%増）、猫が48.3万頭（同16%増）と増加傾向にある¹⁴。

2. 1. 2 ペット関連の支出の変化

ペット関連総市場規模も増加傾向だ。図2は、（株）矢野経済研究所が国内のペットビジネス市場を調査したものである。ペット関連総市場規模は年々増加しており、今後も増加すると考えられている。



< 出所 > （株）矢野経済研究所「ペット関連総市場規模推移と予測」より作成

https://www.yano.co.jp/press-release/show/press_id/2649

2019年度のペット関連総市場規模は、前年比101.7%であった¹⁵。コロナウイルス感染拡大による外出自粛で、ペット用品の需要が高まった。コロナウイルスは現在も流行しており、ペットを連れて遠出しようとする人は少ない。加えて、外出できない分在宅時間を一層充実させる必要があり、家庭内のペット用品の需要の高まりはつづくだろう。

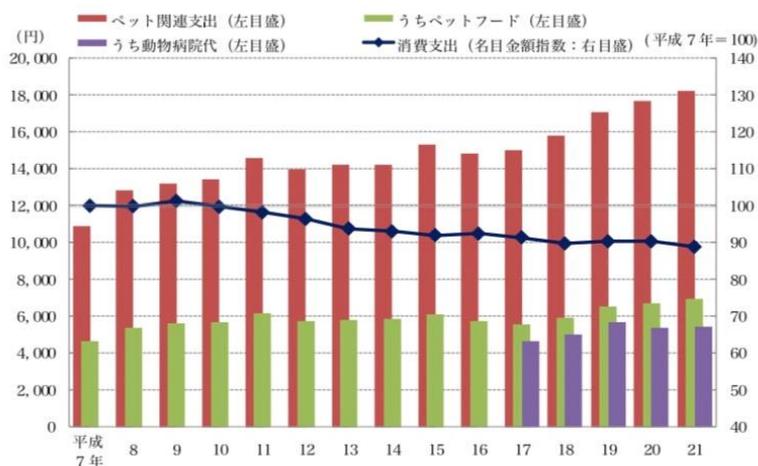
図3は、ペット関連の支出調査の結果である。2人以上の世帯の一世帯あたり年間支出額は1995（平成7）年から2009（平成21）年に1.7倍になっている。

また、ペットフードや病院代も年々増している。これは、ペットは家族という考え方に深く関係があると考えられる。家族だからおいしいものを食べてほしい、長生きしてほしいと思い、ペットに関連する支出も大きくなるといえる。

¹⁴ 「ペット」業界がコロナ後も強いといえるワケ」東洋経済ONLINE、2021年9月4日
<https://toyokeizai.net/articles/-/452427>（最終閲覧日：2022年9月20日）

¹⁵ 愛犬と伊豆高原で初詣するなら「神祇大社」！ワンちゃん連れにおすすめの理由とは？ - 愛犬との旅行ならイヌトミィ https://www.inutome.jp/c/column_2-323-27647.html（最終閲覧日：2022年10月30日）

図3 ペット関連の支出



< 出所 > 総務省 https://www.stat.go.jp/data/kakei/tsushin/pdf/22_9.pdf

2. 3 ペットツーリズムの事例

2. 3. 1 ペットツーリズムの現状

東海林克彦の調査によると、小型犬飼育者では56.1%、中型犬飼育者では41.9%、大型犬飼育者では47.1%がペットツーリズムを体験しており、体験者の94.8%がまた行きたいと答えている。また、未体験者でも過半数の53.2%が行きたいと回答している。多くの飼い主がペットツーリズムを経験し、リピーター率や非経験者でも参加希望率が高い状況にある¹⁶ という。

2. 3. 2 事例

① 栃木県那須町 ワンコネット那須

日本に犬連れ専用の地図がなかった2004年、那須の犬連れ宿が数軒集まり、「ワンちゃんとお出かけマップ」を作成した¹⁷。

首都圏からの利便性の良さ、山頂まで犬がロープウェイに乗っていけるようにケージが用意されている国立公園、ゴンドラにそのまま犬を乗せることができるスキー場、自然と地域の人々の温かな対応から、「日本一犬に優しいリゾート」、「日本一ドッグフレンドリーなリゾート」と公式サイトに記載されている¹⁸。

¹⁶ 東海林克彦「ペット・ツーリズムの適正推進方策に関する考察」『観光学研究』14号、2015年3月、40頁

¹⁷ ワンコネット那須「ワンコネット那須とは」<https://www.nasu-wanko.net/about/>(最終閲覧日：2022年9月20日)

¹⁸ 同上

②長野県軽井沢町 新幹線の利用「わん！ケーション」¹⁹

JR東日本グループは、日本初の新幹線ペット専用列車の運用実験と軽井沢でのツーリズム企画を2022年5月21日から1泊2日で実施した。列車内でも愛犬とのリラックスした時間を一緒に過ごしたいという顧客の要望に応える「ペットとの共存」を目指すために企画された。

通常、愛犬との列車移動はケージに入れる必要があるが、往路の新幹線乗車後約40分間を「ファミリータイム」とし、愛犬をケージから出してもよい時間を設けた。膝の上やカバーをかけた座席シートの上で一緒に旅行を楽しむことができるのが特徴である。

また、実証実験では、PETOKOTO（JR東日本スタートアッププログラム2021の採択企業）が持つノウハウや獣医療知識に基づいた清掃方法を実施した。ツーリズムに使用する車両は貸し切り列車とし、被毛対策の徹底、終了後は、アレルギー対策として獣医師の指導に基づいた特別清掃が行われた。

③静岡県伊東市 伊豆高原

伊豆高原のわんわんパラダイスホテルは愛犬同伴者に人気のホテルである。客室内で犬が自由にでき、ドッグラン、ドッグガーデンが併設され、屋上にある犬専用の温水プールなどペットと楽しむことを目的として宿泊できる²⁰。

また、2022年4月より、「ホテルアンビエント伊豆高原本館・コテージ」では、全室が犬と泊まれるようになり、「伊豆高原わんわんパラダイス ホテル&コテージ」として規模を拡大した。それに伴い、犬と一緒に楽しめる「海の見える芝生広場」やドッグラン、コミュニケーションの場、屋内プレイスペースなど、思い出作りも楽しむことができる施設も新規オープンした²¹。

伊豆高原にはわんわんパラダイスに加えて、さまざまなペットと楽しむことができる施設がある。その中心が2016年に誕生した「愛犬ととことん遊べる総合ドライブイン愛犬の駅 伊豆高原」である。

屋内、室内で楽しむことができるドッグラン、ドッグカフェがある。また、愛犬の肉球模様を入れたプレートやフードボウルなどを作る陶芸体験、愛犬と一緒に楽しめるBBQ施設もあり、移動する必要がなく一カ所で楽しむことができることが魅力である²²。

伊東市役所観光課の斎藤さんの話によれば、「伊豆高原の犬旅は年々盛り上がっている」、「新型コロナウイルスの影響により観光客が減ってしまったが、それでも犬と泊まれる宿は、他の宿よりもよく稼働していた印象を受ける」とのことである。

¹⁹ JR東日本スタートアップ株式会社、PR TIMES、2022年4月26日「日本初！新幹線を利用したペットツーリズム「わん！ケーション」」

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000167.000034286.html>（最終閲覧日：2022年9月20日）

²⁰ 安田亘宏・中村忠司・吉口克利、前掲書、60・61頁

²¹ 伊豆高原わんわんパラダイスホテル&コテージ「伊豆高原わんわんパラダイスホテル&コテージのおもてなし」

<https://www.wanpara.jp/izu-hotelandcottage/>（最終閲覧日：2022年10月9日）

²² 愛犬の駅・伊豆高原 <https://www.izufull.com/aiken>（最終閲覧日：2022年10月16日）

犬と泊まれる宿、犬と遊べる場所がそろえば、犬を飼っている人を観光客として呼び込むことができる。南伊勢町には、海や山などの景観だけでなく、海鮮料理、海遊びなどを楽しむことができる点で、伊東市と非常に類似している。南伊勢町は、犬旅で町を活性化することができる最適の地である。

2. 4 海外での「犬旅」

海外、とりわけヨーロッパ諸国での犬旅は日本よりも発達している。ヨーロッパ諸国では犬を含むペットを「家族の構成員」として考えているため、旅と一緒に行くのは当然である。

2. 4. 1 各国の状況

ヨーロッパにおける犬旅において、最も一般的な交通手段は自動車である。例えば、イギリスの高速道路のサービスエリアや自然公園には犬用の水飲み場が準備されている。宿泊施設も広く犬の受け入れ体勢が整っていることから、ストレスなく犬旅ができる。

イタリアやオーストラリアなどでは、海・山のような自然がある地域に向かう犬旅が人気だ。

カナダの公園のような公共のエリアや宿泊施設においては、時間や場所によって犬の立ち入りが厳格に定められている。反面、リードなしでも犬を連れ歩けるエリアも存在するため、旅をする際に犬と行ける場所が明確で、わかりやすい。

海外でこれほどまでに犬が許容されている理由として、安価なしつけ教室や活発な動物愛護団体の存在が挙げられる。150年以上の歴史を持つイギリスのドッグショー、ケネルクラブが主催するしつけ教室や、オーストラリアでの動物愛護団体の活動により、マナーの良い犬が多い。このような背景により、犬は日本よりも高い水準で市民権を得ているのである。

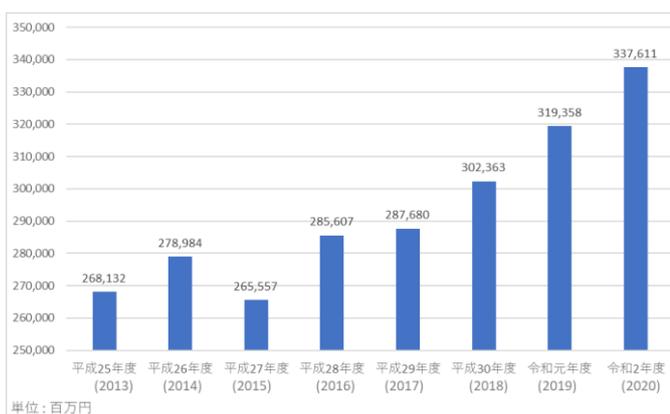
3. ペット産業

3. 1 ペットフード

ペット産業は主に、ペットフード、ペット用品、生体・サービス分野、ペット医療の4つの市場に分けられる²³。その中でもペットフードが占める割合は大きく、図4を見ると、2015年で一度減少したものの、それ以降は順調に規模が拡大していることがわかる。

²³ PEDGE「ペット産業の動向～市場規模、競争環境、主要プレイヤー」
<https://pedge.jp/reports/outline/>（最終閲覧日：2022年10月9日）

図4 ペットフード市場規模推移



＜出所＞一般社団法人ペットフード協会
「ペットフード流通量調査結果」より作成
<https://petfood.or.jp/data/chart2008/ryutu.html>

主食としてのペットフードは「総合栄養食」と言い、ペットフードと水を与えていれば必要とされる栄養素が摂取できるように作られている。「間食」は、栄養素補給としては必要ないが、ペットのしつけや運動、ご褒美として与えるなど限られた量を与えることが意図されているペットフードである。

目的別では、「総合栄養食」「間食」「療法食」、そのいずれにも該当しない「その他の目的食」に分けられる²⁴。

ペットフードにはさまざまな種類があるが、その中でも、人気なのはプレミアムペットフード²⁵である。

ペットを家族の一員として捉える飼い主は、より高品質で信用性のある製品をペットフードに求めるようになってきているのである。

3. 2 生体・サービス分野

日本での大きな懸念事項は、犬は社会においてまだまだ動物でしかない点である。当然、飼い主や犬好きの人からは家族以上に大切にされていることは間違いないが、公共の空間に動物が入ることに対して嫌悪感を覚える人も少なくない²⁶。

実際、前述の伊東市でも犬が海水浴場にいてもよいのか、という問い合わせが稀にあるらしい。ペットツーリズムをこれまで以上に発展させるためには、犬を飼っていない人からも理解を得ることが必要不可欠だ。

3. 2. 1 国内で犬旅を行う難しさ

ペットと旅行する際の問題の一つは、移動方法だ。犬の情報サイト、わんちゃんホンポが実施したアンケート調査によると、愛犬を旅行に連れていかない理由として最も多かったのは、移動が心配（車酔い・公共交通機関での移動が不安）であった²⁷。

公共交通機関でも犬旅に対応しているが、ペットにやさしいとは言いがたい。

電車利用の例としてJR西日本や日本近畿日本鉄道では、縦・横・高さの合計が120cm以内の動物専用のケースに入れたもの、また、ケースと動物を合わせた重さが10kg以内のもの

²⁴ 一般社団法人 ペットフード協会「ペットフードの種類」

<https://petfood.or.jp/knowledge/kind/>（最終閲覧日：2022年10月9日）

²⁵ プレミアムペットフードとは、明確な定めはないが、従来の安価なペットフードと違い栄養価や安全性等に配慮した高付加価値・高価格帯のペットフードのことを指す。インタビューサイトPEDGEによると、「家族化」、「高齢化」、「健康志向」という3つのペット産業のトレンドを背景に、プレミアムペットフードの市場規模は拡大しているという。

²⁶ 2003年に行われた、内閣府による「動物愛護法に関する世論調査」より

²⁷ わんちゃんホンポ「犬と暮らす方への旅行に関する意識調査」

<https://wanchan.jp/enq/finish/247>（最終閲覧日：2022年10月9日）

のとしている。また、駅や車内でケースから出すことは禁止されており、手回り品料金として1個につき290円かかる²⁸。

このように各公共交通機関には規定がある。大型犬の持ち込みが不可であることが多いこと、他人に迷惑になるかもしれないなど、飼い主がペットとの旅行をする際には心配することが多い。そのため、ペット同伴旅行は、自家用車の利用が圧倒的に多い。旅の販促研究所が2007年に実施した犬旅で利用した交通機関という調査結果によると、自家用車の利用は92.2%にもものぼる²⁹。

ペットも生き物であるため、排泄や食事などの生理現象に対応する飼い主の用意も重要になる。十分なしつけを行う必要もある。直近の大都市である大阪や名古屋から南伊勢までの電車やバスにおいて、ペットを同伴することについての実証実験を行うのがよいであろう。

日本の伝統的な宿泊施設である旅館とペットは相性が悪い。障子や襖は爪で破れやすいだけでなく、匂いも吸着しやすい。縄張り意識の強い犬も多いため、他の犬の匂いが気になってリラックスできない犬もいる。これについては旅館やホテルの設備をペット対応にし、ペット専用の宿泊施設を充実させる必要がある。

4. 南伊勢における犬産業の可能性

自然豊かな南伊勢町では、その自然を生かした犬旅ができる。これまで述べてきたように近年のペット産業の盛り上がり、さまざまな地域でのペットビジネスの成功から、南伊勢全体としての「犬産業振興計画」の策定とペット同伴の旅行「犬旅」政策の推進を提案する。すでに、南伊勢町の海で、カヤックなどのマリンアクティビティを犬も一緒にできるようにしている施設も存在する。それらの施設の充実、類似施設を増やすことが考えられる。他に、切原白滝や東宮・不動の滝といった滝の名所や花の名所を犬と一緒に巡るハイキングコースをつくることも考えられる。宿泊に関しても、すでにいくつかの施設で犬と一緒に泊まれる。既存の宿泊施設を犬旅ができるホテルや旅館・キャンプ場などとして改装することで、「南伊勢町と言えば、犬旅」となり、より多くの人を南伊勢町に呼び込める。

4. 1 ドッグラン

事前調査では、漁業集落には家屋が密集しており広い土地はないが、農業集落には比較的広い土地があるとの回答を得た³⁰。南伊勢町は、登記上、南伊勢町農業委員会により管理されている田畑のうち3割程度が耕作放棄地である³¹。耕作放棄地の利活用の方法とし

²⁸ JRおでかけネット「持ち込める荷物」

https://www.jr-odekake.net/railroad/ticket/guide/other_tickets/baggage02.html(最終閲覧日：2022年10月9日)

近畿日本鉄道「きっぷの情報」

<https://www.kintetsu.co.jp/gyoumu/kippu/nyuujouken/nyuujouken.html>(最終閲覧日：2022年10月9日)

²⁹ 安田亘宏・中村忠司・吉口克利、前掲書、99頁

³⁰ 「公共政策フォーラム 2022 in 南伊勢 現地調査事前質問調査票」回答より

³¹ 同上

て、ドッグランを挙げる。多くの運動量を必要とする犬種は、散歩だけではエネルギーの発散が不十分な可能性もあるといい、サービスエリアやショッピングモールに併設されたものも増えている。

耕作放棄地にドッグランを作るためには、農地転用などの申請、地目や所有者の変更を行う必要がある。また、犬の大きさで分ける必要もある。ドッグランとするために必要な基本の設備は、飛び越えられない・すり抜けられない柵と扉、足への負担を軽くするための舗装材である。そのため、簡単に整備できる施設である。

4. 2 宿泊施設・飲食店・ドッグカフェ

ペットとともに宿泊のできる犬連れ宿は日本各地に増加している。南伊勢町においても、TASO BEACHハウスやニューはまぐち屋など、犬とともに宿泊できる施設ができています。

小型犬・大型犬の違いや犬種、年齢の違いにより求められるものも変わるため、サービスの種類を潤沢に用意する必要があるが、細分化したビジネスが多く展開できるともいえる。訪れる人の家族、「お客様」として丁寧に対応することが近年の犬旅には求められている。つまり、「ペット可」であるだけでなく、食事や温泉などの館内施設の利用も犬と一緒にできるサービスが必要である。

近年ドッグカフェでは、地場産品を使った、犬も人間も食べられる食事が人気となっている。南伊勢町では、魚介類だけでなく、柑橘類などの農作物も収穫できる。犬の形に魚介類を盛り付けたり、かわいいスイーツを作ったりすることもできるであろう。

そして、湾岸部に南伊勢町の豊かな海を活かした小規模多機能型ドッグウォーターパークを建設することを提案する。こちらも入り口を犬の犬種・大きさで分けるなど、犬の滞在が快適なものとなるようにする。

山間部のドッグランと湾岸部をつなぐ形で「南伊勢 いぬの道」として、ドッグカフェのみならずトリミング・ペットサロン、ペット写真館や譲渡会を行うスペースまで、さまざまなペット産業が集まるまちにできる。

しかし、いずれも住民の協力が不可欠となるため、犬を連れて歩くにあたってのルール作りやそれを広く知らせることが重要となる。

4. 3 ペットフード

(株)ゲイトは、もともとは居酒屋を主業としている会社である。2016年から三重県尾鷲市で漁業の取り組みを開始し、その後、魚と水産加工のノウハウをいかし、魚だけを材料に使う「完全無添加」のペットフードの販売を行うようになった。広告費は一切使用していないが、内閣府の政府広報番組やNHKの番組などでその取り組みが紹介され、その商品が口コミで売れるようになっていく。親子で漁とペットフード作りを体験でき、ペットと一緒に宿泊することができるツアーも行っている。このように、漁業とペットフードを組み合わせた取り組みを南伊勢町で行うことも「犬」に関する産業となる。

ペットは家族という考え方から、ペットフードの需要はこれからより一層高まるだろう。漁業が盛んな南伊勢町独自のブランドの無添加ペットフードを作れば大きな反響が期待できる。マグロやおおさを使うことが考えられる。さらに、小さくて販売できない魚を使え

ばフードロスの解消にも繋がる。肉系をベースにしたペットフードではなく、カルシウムが豊富で低カロリーの海産物からできたペットフードは、需要があるはずだ。また、ペットと泊まれる宿と協力して親子でのペットフード作りのツアーを行えば、新たな観光客も集めることができる³²。

4. 4 ペットの成育に直接関係しないビジネス

ペットの家族化に伴い、関連ビジネスも市場を広げている。多くの関連ビジネスが今後もしも盛り上がりを見せると考えられる。

4. 4. 1 お参り

静岡県伊東市にはペットと一緒に参りできる神祇大社がある。神主にインタビューしたところ、「もともと新宿に建てられていた神社で、犬を散歩しながら訪れる人が多かった。1999（平成11）年頃に伊東市に移転してからも境内を犬と散歩可能とし、犬も家族だから幸せになってほしい、そして家族みんなが幸せになってほしいという願いから、ペット用のお守りの販売も始めた。現在はペット用の絵馬、お札の販売も行っている。近年、ペットとともに訪れる人が増加している」とのことであった。

南伊勢町にも趣のある神社がたくさんある。伊勢神宮では、ペットはお参りの前に預けることになる。ペットとお参りできる神社、ペットと一緒に幸せになれる神社が南伊勢町にあれば、需要はある。

4. 4. 2 ペット供養

「ペット供養」は、ペットを失ったことにより引き起こされるペットオーナーの身体的・精神的疾患「ペッロス症候群」を、十分に「お別れ」することで防ぐ・軽減する方法の一つである³³。ペット供養ビジネスはペット葬、ペット霊園、一緒に入ることのできるお墓や骨壺、墓石、位牌、仏壇まで広く展開されている。

ペットと一緒に旅行に来た南伊勢の地で、ペット葬を行い、気持ちに区切りをつけたいと考えるペットオーナーはたくさんいるのではないだろうか。ペット葬祭業は都市計画法上、施設の建設が可能であることが確認できれば、特に許可を必要とせずに開業することができ、火葬場を併設したペット霊園は比較的容易に参入できるという³⁴。また、ペットのお墓参りに訪れることが南伊勢町に定期的に訪れてもらうことにつながるという点でも期待のできるビジネスである。

そして、犬ビジネスのうち、犬の高齢化・平均寿命の延びに伴い近年広がっているのが、老犬ホームである。犬も人間と同様に、徘徊や夜鳴き、痴呆、寝たきりで介護が必要にな

³² 「居酒屋からペットフード屋へ 事業転換を支えたもう一つの挑戦」 Forbes JAPAN、2022年6月8日

熊野灘でとれたお魚ごはん <https://store.gateinc.jp/>（最終閲覧日：2022年10月29日）

³³ 安田亘宏・中村忠司・吉口克利、前掲書、38-45頁

³⁴ 中小企業基盤整備機構 J-Net21 「業種別開業ガイド ペット葬祭業」
<https://j-net21.smrj.go.jp/startup/guide/service/service03.html>（最終閲覧日：2022年10月24日）

る場合も多いが、犬と人間の「老老介護」や、犬の介護には知識が必要である等の理由から、入居頭数は徐々に増加している。

他市町村の既存の施設も、自然環境の豊かさを売りにしているところが多い。他の施設同様、南伊勢町の自然環境を活かすことができ、元気な犬、介護が必要な犬、犬種などに合わせたさまざまなサービスの展開が重要となる。

まとめ

本稿では、伊勢地域の歴史であるおかげ犬から始まり、現在成功している国内外のペットツーリズムの事例の紹介、ペット市場やペット産業について分析したうえで、南伊勢町で実現可能性が高い犬旅をはじめとする犬に関する産業について提案してきた。事例や市場の動向からもわかるとおり、ペットツーリズムは需要が高い割にまだ発達しきっていない観光産業であり、たくさんの観光客を呼び込む強い武器となるだろう。

南伊勢町は自然が豊かで、おいしい海産物もそろっている。しかしながら、移動手段や宿泊施設といった受け入れ体勢の整備、町民から理解を得ることなど実現のために達成しなければならない課題はいくつもある。公共交通機関でのペットの同乗、特に大型犬の扱いについては、大きな変革が必要であるが、事業者と連携し、資本投資する価値は十分にあるだろう。

コロナ禍の影響で新しく家族としてペットを迎え入れたオーナーも多く、新築のマンションでもペット可の物件が増えている。ペット市場がこれからも拡大していくことは間違いない。同時に現在既に高まっているペットツーリズムの需要がさらに上昇していくだろう。今から手を打てば、南伊勢町は犬旅のメッカとなる。国内の成功事例や海外の状況、ペットオーナー達の話を参考にしながら、南伊勢町らしい犬に関する産業を振興することが今後の南伊勢町の活性化につながることは間違いない。

以 上